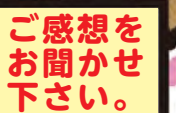


SawayakaLife

姫路赤十字病院 広報誌



スマートフォンから

スマートフォンから

広報誌「さわやかライフ 137号」アンケートへのご協力をお願いします。

- 診療科のご紹介：乳腺外科 02～03
- 各種訓練に参加しました 04
- 「合同防火訓練」を実施 04
- 地域医療従事者スキルアップ研修会 05
- 通院サポートアプリの導入について 05
- 事務の「さわやかさん」たち 06
- リハビリテーションだより 07
- 看護部だより 患者さんやご家族の思いに寄り添う ... 08
- 検査技術部だより 遺伝子検査の種類 08

- 薬剤部だより 抗がん剤は絶対吐き気がするのか? … 09
- 栄養課だより 骨を健康に保つために! … 09
- 看護学校だより 看護師への第一歩! … 10
- 相の会 … 10
- 海外たすけあいキャンペーン … 11
- 院内講座のご紹介 … 11
- アンケートへのご協力お願い … 11
- 医療安全川柳 … 12
- 四季を撮る … 12

表紙写真：事務

二〇二一年度

一般の部

病原体	みんな戦う	ワンチーム	藤本	陽菜
病気も	みんないるから	安心だ	藤本	陽菜
この世界	みんな一つの	花束だ	藤本	陽菜
急ぐとも	焦り禁物	事故が待つ	松原	正行
焦らずに	深呼吸して	事故防ぐ	松原	正行
滑り転け	歳には勝てぬ	照れ笑い	松原	正行
見逃され	別の検査で	救われる	松原	正行
安全を	願う信じて	手術台	松原	正行
会話から	患者の不安	和ませる	松原	正行

スタッフの部

安全は あせらずあわてず ゆとりから 村上かおり
自分では 見えない所に ミスの種 来年こそ、トラ年に
ダブルチェック 二人だからこそ 気を抜かず 森 愛佳
失敗を 活かすあなたに 花丸を 橋本 麻由
深呼吸 役割確認 再出発 橋本 麻由
かな、だろう かもしれないは もういいよ 橋本 麻由
やることと ちゃうこと考え ミスをする
慣れてきて 確認怠り ヒヤリハット
CLIPは 心にとめて 次活かす
声を出し チームワークで 防ぐ事故

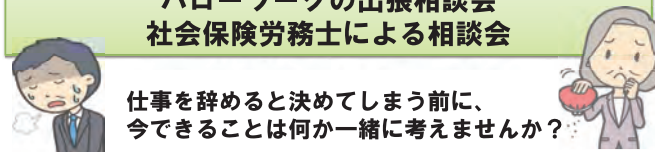
『高源寺の紅葉』

(2021年11月撮影：写真提供・記事 西詰 昌平)



当院では次のような**就労に関する相談会**を実施しています。

ハローワークの出張相談会
社会保険労務士による相談会



- ・毎月第2火曜日
14:00~16:00
- ・完全予約制

・毎月第4金曜日
13:30~17:00
・完全予約制

お問い合わせはお電話または相談支援センター窓口へどうぞ。
電話 079-294-2251（代表） 079-299-0037（直通）

〒670-8540 兵庫県姫路市下手野1-12-1
TEL: 079-294-2251 FAX: 079-296-4050 ホームページ <https://himeji.jrc.or.jp/>
広報誌「さわやかライフ」Vol.137 2022年12月発行
発行責任者/院長 岡田裕之 編集責任者/広報委員長 石川慎一

診療科のご紹介

乳腺外科

乳腺外科 右から

おおつか しょうこ
大塚 翔子
乳腺外科副部長

かわさき けんすけ
川崎 賢祐
乳腺外科部長

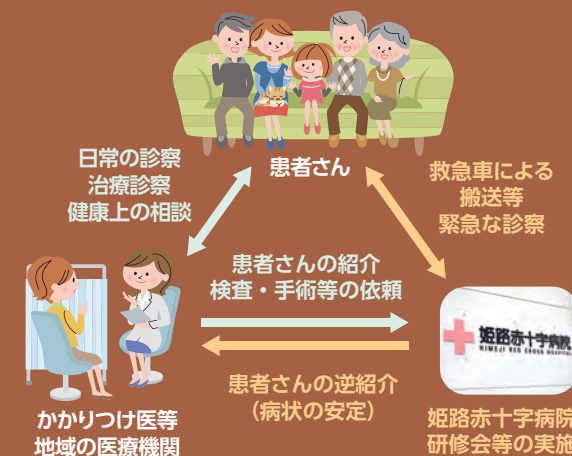
こさか まや
小坂 麻耶
専攻医

最新かつ心のこもった医療を提供する



＼ 姫路赤十字病院を受診される皆様へ / かかりつけ医をもちましょう

かかりつけ医とは、日常的な健康管理や風邪をひいた時、あるいは体調などに不安を感じた時、慢性期の継続的な治療が必要な時にかかる診療所や医院の医師のことです。入院や専門的な治療が必要な時には、かかりつけ医からのFAX紹介で大きな病院にかかりましょう。



姫路赤十字病院は、「地域医療支援病院」です。

地域医療支援病院とは？

紹介患者中心の医療を提供し、病状が安定した患者さんはかかりつけ医へ逆紹介し、切れ目のない医療の提供を行います。また、救急医療・地域医療の中核を担う体制を整えた病院が「地域医療支援病院」として各都道府県知事より承認を受けております。



正面玄関入って左手に「かかりつけ医の紹介」ブースを設けています。姫路市内の医療機関については、姫路市医師会のホームページから検索して印刷できるようパソコン

を設置しています。姫路市以外の医療機関については、リーフレットを置いてありますので自由にお取りください。また、「かかりつけ医」のご相談にも応じています。

姫路赤十字病院 地域医療連携室

TEL : 079-294-2251 (代)

＜遺伝性乳がんについて＞

乳がん罹患する方のなかで約10%が血縁の中に乳がん患者さんがみられる、いわゆる「家族性乳がん」と呼ばれる方々です。その中でも約半数が特定の遺伝子に関する検査で乳がんになりやすい体質を判定することができる「遺伝性乳がん」です。特に「遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)」は、遺伝子に関わる検査や、リスク低減手術、MRIを用いた特別な検診などが、数年前から保険適応で行うことが出来るようになってきました。

当院の乳腺外科では、このような遺伝の要因のある患者さんに対しても、院内の遺伝子診療部や認定遺伝カウンセラーと協同して、必要なタイミングを逃さず、きめ細やかな対応が出来る体制を整えています。乳がんと遺伝について気になる方は、お気軽に御相談ください。



姫路赤十字病院乳腺外科では、現在3名の常勤医師で診療にあたっています。

対象となる疾患で最も多いのは乳がんで、近年では日本人女性の約10人に一人が罹患するといわれています。乳がん診療は、早期発見を目指した検診から、診断、手術、薬物治療、放射線治療など多岐にわたり、また術後に再発した患者さんの治療や終末期への対応も必要となります。

検診から終末期まで非常に広い範囲に対応するためには、我々乳腺外科医だけでなく、院内のさまざまな職種との連携したチーム医療が鍵に

なります。このチーム医療には院内だけでなく、地域医療機関の先生方との連携も含まれています。

当院では、地域の先生方から非常に多くのご紹介をいただき、手術、抗がん剤治療、放射線治療など当院で出来ることが終われば、地域の先生と連携しながら経過観察を行うケースが多くなっています。

最新かつ心のこもった温かい、常に患者さんを中心とした医療が提供できるよう心がけています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

乳腺外科部長 川崎 賢祐

各種訓練に参加しました

9月27日（火）に、京都府舞鶴港で開催された「第八管区海上保安本部巡視船みうら合同災害救護訓練」に当院の救護班が参加しました。この訓練は、南海トラフ等大規模地震発生時に淡路島が陸の孤島になったときを想定して行われました。海上保安庁と協力し船内救護所設営、トリアージ訓練等を行いました。

10月15日（土）には、神戸赤十字病院で開催された「災害拠点病院研修」へ参加しました。この研修は、淡路島北部を震源としたM6.0、最大震度7の地震が発生、JR摩耶駅付近での列車が脱線転覆事故による傷病者受け入れを想定した実働訓練方式で行われました。当院救護班は応援救護班として参加し、神戸赤十字病院の救護班・職員と協力の下、中等症エリアの傷病者の受け入れ訓練を行いました。

さらに、10月29日（土）には、エコパークあぼしで開催された「姫路市総合防災訓練」へ参加しました。この訓練は、南海トラフ地震が発生して姫路市において最大震度6強を観測、兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された想定で行われました。当院救護班は救護所の設営や中等症エリアの傷病者受け入れ訓練を行いました。また、電気自動車から発電し救護所（エアートtent）を設営する取組も行われました。

新型コロナウイルス感染症が終息しない中、感染状況を注視しながら救護訓練もようやく再開され始めました。

昨年度は、一度しか参加できませんでしたが、今年度は皆様のご協力もあり様々な訓練・研修に参加できるようになりました。この場をお借りし厚く御礼申し上げます。救護班はWEB研修も活用し研鑽を重ねてまいります。社会課 救護講習係長 岩井 良次



姫路市総合防災訓練



みうら合同災害救護訓練



災害拠点病院研修

院内敷地内の営業施設と「合同防火訓練」を実施

消防法に基づいた、休日・夜間想定防火訓練を10月27日（木）午後4時からPET・コミュニティ棟において実施しました。

この建物の2階部分には、食事のできるレストランと院外処方に対応する調剤薬局が営業しており、また、3階部分は、一般の方に講演、研修が行える「多目的ホール」があり、不特定多数の方が利用することから火災が発生した場合は、迅速に消火活動を行う必要があります。

今回の訓練では、レストランの営業終了直後に厨房から出火した想定で行い、「初期消火」、「火災通報」、「負傷者の安全確保と避難誘導」を病院職員当直者と敷地内営業施設職員が協力・連携して行い、火災発生時の手順を確認することが出来ました。

また、訓練参加者による消火器の取り扱いの実践も行い、営業時間中にも関わらずご協力いただき、より良い関係を築けた訓練となりました。防火・防災管理者（社会課長） 大西 勝彦



地域医療従事者スキルアップ研修会

地域医療支援病院の役割として、平成26年度より地域の医療従事者の方を対象に「地域医療従事者スキルアップ研修会」を開催しています。行政の方にご講演いただいたこともあります。講義だけでなくグループワークを行うことにより、地域の医療や介護に従事する方との顔の見える関係を築く機会となっていました。

2020年の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、やむなく開催を一旦中止し、2021年度よりオンライン研修会を開催しています。本年度もオンライン研修を3回計画しました。すでに、6月、10月は終了しておりますが、多数の方にご参加いただき、開催を心待ちにいただいています。地域の医療や介護の従事者の方達と共に学習し連携していきたいと思っています。総合相談支援課長 志水 真弓



通院サポートアプリの導入について

令和5年1月10日（火）より、患者サービス向上および外来待合スペースの混雑解消のため、通院サポートアプリ「LifeMark-コンシェルジュ」を利用したサービスを開始いたします。

通院サポートアプリでは、患者さんご自身のスマートフォンにて、①次回受診日の予約状況確認、②来院日前日のメッセージ通知、③当日の診察待ち状況の確認、④診察順番が近づいた際の呼出通知といった機能を利用いただけます。

これにより診察予約忘れを防止するほか、診察待ち時間を院内のお好きな場所で自由に過ごしていただくことができます。

付き添いの家族の方のスマートフォンにアプリを入れていただくことで、スマートフォンを持たないご家族の登録もでき、同様にアプリ機能を利用することができます。一人でも多くの方にご活用いただければと思います。

なお、ご利用開始にはアプリインストール後、アプリ登録窓口での登録手続きが必要となります。（初回登録時のみ）※利用手数料は無料です。

ただし、患者さんご自身のスマートフォンの通信料は、利用者の自己負担となります。

次期医療情報導入プロジェクトチーム



「予約確認」



「診察状況お知らせ」

事務のお仕事

用度課

私が所属している用度課は主に医薬品、高額医療機器、契約書の締結、医療消耗器具備品から一般消耗品まで多岐にわたる業務を担っています。私の主な担当は医薬品で、毎日薬剤部から依頼された医薬品を発注し、仕入れを行う業務に従事しています。月末時には在庫管理システムで医薬品の在庫や医薬品を使用して消費した金額の計算等を行い、病院の費用として問題がないか精査します。患者さんと直接関わりのある仕事ではありませんが病院を経営する上で、なくてはならない仕事だと思っています。これからも患者さんが安心して受診できる病院づくりを後方から支援していきたいです。

事務部 用度課 磯部 貴久



人事課

私の仕事内容としては毎月の給与計算をはじめ、職員の出張の手続き・住所変更をする時の手続き・医師の時間外勤務の計算などを行っています。私自身今年4月に入社したばかりで何もかも初めての状況から半年が経ちました。まだまだ覚えられないことも多いですが自分1人でこなせる業務が増えてきたことに毎日やりがいを感じています。趣味は野球観戦で自宅近くに野球場があった影響もありオリックス・バファローズが好きで今年は26年ぶりの日本一に輝き日々の業務のモチベーションにもなっていたのすごく嬉しかったです。

事務部 人事課 野口 透



企画課

企画課では院内で行われる会議資料の作成や、他部署から依頼されたデータの統計資料の作成、病院で行う新たな取り組みの発案、企画などを主な業務としています。また、本社に提出する統計資料の作成なども企画課で行っています。その中でも私の担当する業務は、患者数などのモニタリング業務、毎月開催される報告会議の資料の作成、本社への資料提出等です。

特に、「伝えたい要点」を意識して資料作成しています。病院には様々な職種の方が勤務しており、他の業務もある中で会議にも参加しています。短い時間で必要な情報を正確に伝達するためにも分かりやすい資料や統計データの作成に力を入れています。



事務部 企画課 高橋 聡騎

医事課

医事課では、入院患者さん及び外来患者さんの料金算定、社会保険・国民保険、自賠責・生活保護等の保険請求などの業務があります。

その中で私は主に入院費用の請求業務を行っています。国がとり決めた診療報酬制度に従い、病名・手術・処置などをもとに入院費用を算出します。より専門的な領域は医師・看護師などに確認をしています。医療の進歩による制度の変化に対応するため、日々新たな情報の確認をしながら業務に取り組んでいます。

事務部 医事課 幅野 大介

総合相談支援課

総合相談支援課は、医療相談やがん相談などあらゆるご相談・ご意見に対応する部署です。私の主な役割は、患者さんの相談内容を伺うことや相談に合った専門の相談員へ繋ぐこと、相談統計、通訳機の貸出です。「姫路赤十字病院、相談支援センターです」と電話に出る際は、一層背筋が伸びます。

地域への情報発信も担っており、一般の方に向けた健康増進講座（現在はYouTube配信のみ）や、情報発信だけでなく連携を目的とした医療従事者スキルアップ研修会を行っています。患者さんと医療の架け橋として同課の先輩方に学びつつ精進します。

医療社会事業部 総合相談支援課 芦田 麻帆



事務

リハビリテーションだより

転ばぬ先の
つえ
その5

前回までは、主に杖に関する紹介をしてきました。今回は、杖以外の歩行補助具、シルバーカーと歩行車について紹介します。これらは似ているようですが、それぞれ目的が違っています。特徴や機能を知って、自分の身体や使用環境に合ったものを選びましょう。

まず、シルバーカーと歩行車に共通するメリットは、杖と比較して歩行時の安定性が高いことです。荷物入れがついていることが多く、物を持ち運ぶことができます。また、イスがついているものもあり、疲れた時に休憩することができます。デメリットとしては、大きな作りになっているため、バスや電車を利用する方、狭い場所で使いたい方には使いにくい点が挙げられます。

次は、シルバーカーと歩行車それぞれの特徴を説明していきます。



● シルバーカー

歩行が自立している人が、荷物の運搬や休憩をする目的で設計されています。一人で歩けるけれど、足腰が弱ってきて少し歩くだけでも疲れてしまうなど、歩行に不安を感じている方が使用すると、安定した姿勢を取りやすく、歩行をサポートしてくれます。また、荷物を入れる大型のかごや疲れた時に休憩ができるよう椅子がついているなど、外出を快適にしてくれる工夫がされています。

シルバーカーは自立歩行ができる方を対象としており、介護保険対象外ですので自費購入となります。

● 歩行車

筋力低下、病気、けがなどで支えがないと自力歩行が困難な方をサポートするために設計されています。体重を支えて移動できるので、足腰への負担軽減効果が優れていることが特徴です。歩行が不安定で転倒の危険性がある人は、シルバーカーよりも安定性に優れている歩行車がよいでしょう。肘置きタイプもあり、手の力に不安のある方が体を預けて歩行できるタイプもあります。

こちらは介護保険を利用してレンタルすることができます。介護保険が適用対象の場合、費用の1割（所得に応じて2割～3割）を自己負担すればレンタルすることが出来ます。1割負担の利用で、ひと月に200～500円程度の費用となります。



このように、シルバーカーと歩行車は形は似ていますが、実は作られた目的が違います。それぞれの役割と違った使い方をすると、転倒する可能性もありますので、ご自身の歩行状況に合わせて利用しましょう。判断が難しい方は、専門の方に相談をしてください。



看護部だより

患者さんやご家族の思いに寄り添う

フットケア外来を開設しました

看護部外来は外来診療部門、検査・治療部門からなる部署です。

子育て中の看護職員が多く、三分の二が臨時職員や育児時短勤務の職員です。自分のライフステージや生活スタイルに合わせて仕事をしているスタッフが多い部署でもあります。

外来は1日平均約1300～1400人の患者さんが来られています。入院だけでなく、外来においても高度な治療や検査を行っています。安心して検査や治療を受けていただけるよう取り組んでいます。

看護外来においては、今年度フットケア外来を開設しました。糖尿病療養指導士や認定看護師が担当し、足のトラブルに対するケアや予防などを行っています。私たちは、「看護師の専門性を発揮し、院内外と連携を図り、患者さんの思いを確

外来 看護師長 横田 裕美子

認しながら継続して在宅療養を支援する」ことを大切にしています。患者さんやご家族の思いに寄り添い多職種と連携をとり、在宅療養支援につながるよう今後も取り組んでいきます。



検査技術部だより

遺伝子検査の種類

遺伝子検査について

検査技術部 技師長 春名 勝也

DNAの解析技術が急速に進歩し10年前に比べると短時間で、分析費用も安くなりました。当院でも遺伝子検査が行われています。

① 病原体遺伝子検査（核酸検査）

感染症を引き起こすウイルス等を核酸増幅する方法（PCR）を用いて特定します（※コロナ検査など）医療現場では欠かすことのできない検査となっています。

② ヒト体細胞遺伝子検査

癌化した細胞から特有の遺伝子変異を調べて治療に役立てます。コンパニオン診断やパネル検査と呼ばれ、変異に基づく診断・治療が行われています。

③ ヒト遺伝学的検査

基本的にその人が生まれつき持っている（一生変わらない）遺伝子の特徴を調べるものです。事件などでDNA鑑定という言葉を目にしますが解析技術の進歩はその人の体質や将来の病気のリスクを調べることもできるようになってきています。



さわやかだより

各部・各課のスタッフから健康や医療の情報について紹介します。



薬剤部だより

抗がん剤は絶対吐き気がするのか？

抗がん剤で吐き気が起きる？

薬剤部 製剤係長 大里 勇二

抗がん剤というと、すべて吐き気が強そうなイメージがあるかもしれません。しかし、最近ではその通りとも言えなくなってきています。吐き気が少ない抗がん剤がかなり増えてきていることや、様々な吐き気止めの研究が進んできているからです。

吐き気が起こるリスクは、抗がん剤の種類によってかなり異なります。そのため、その抗がん剤に合わせて、推奨されている吐き気止めを使用し、予防を行います。

予防的な対応はしていますが、個人差が大きく、「ご飯食べられました！」という全く問題なかった方もいれば、「1週間ぐらい食べられなかった」という方もいます。そのため、少しでも吐き気が起きた場合には、吐き気止めを再検討し対応することになります。

「抗がん剤で吐き気が起こるのは当たり前だから」と我慢してしまう方もいらっしゃいますが、少しでも楽に治療を行えるように、気になる事は相談しながら、皆で協力して治療を行うことが大事です。



栄養課だより

骨を健康に保つために！

「骨粗鬆症」予防の食事について

栄養課 管理栄養士 石原 梨絵子

寒くなると環境的な要因から骨折が増えやすくなるといわれています。そこで今回は骨折にまつわる疾患「骨粗鬆症」予防の食事についてご紹介します。

骨粗鬆症とは、骨量が減って骨が弱くなり、骨折しやすくなる病気です。わが国においては、急速な高齢化に伴いその数は増加傾向にあります。

原因と病態：からだの中の骨は生きており、新たに作られること（骨形成）と古い骨を溶かして壊されること（骨吸収）を繰り返しています。骨粗鬆症は、このバランスが崩れることでおこり、骨がスカスカになってきます。

予防：骨粗鬆症の予防において重要なことは、まず第一に成長期に骨量を十分に増加させて高い最大骨量を獲得することです。次に重要なことは、女性においては閉経後急速に骨量が減少するので、骨量の減少をできるだけくい止めることです。さらに骨量がすでに著しく低下している高齢者においては、骨量の維持とともに転倒の防止が重要となります。

●積極的に摂りたい食品

- ・骨の主成分であるカルシウム（乳製品、小魚、大豆製品、緑黄色野菜）
- ・カルシウムの吸収を促進するビタミンD（鰯、鮭、さんまなどの魚類やきのこ類）
- ・骨の形成を促すビタミンK（納豆、緑色野菜）



●控えたい食品

- ・吸収を阻害するカフェイン、アルコール、リン（加工食品・スナック菓子）、食塩を多く含む食品



上記以外にも色々な栄養素の働きが骨の健康に関わっています。1日3食主食・主菜・副菜をそろえてバランスよく食事することがとても大切です。

看護学校だより

看護師への第一歩！

戴帽式を迎えて

10月31日に第124回生の戴帽式を挙行了しました。戴帽生は、4月から講義や演習を通して看護の学びを深め、この日を迎えました。

式では副学校長よりナースキャップを一人ひとり戴きました。自身の看護に対する思いの灯りを輝かせ、一歩



姫路赤十字看護専門学校 専任教師 石原 知代子

一歩丁寧に歩く姿が印象的でした。また、全員で「ナイチンゲール誓詞」を唱和し、看護師を目指す決意を新たにしていました。

厳かな式の後は、校内で上級生が『戴帽を祝う会』を開催してくれました。教室には「～志 夢へ前進～」のキャッチフレーズを添え、共に学び合い、看護師を志す仲間としてエールを送りました。戴帽生は、1月から「基礎看護学実習Ⅱ」が始まります。

戴帽の決意を忘れず、赤十字の人道・博愛の精神を基盤とし、これから出逢う一人ひとりの心に寄り添った看護師となれるよう日々努力していきます。



相の会

AINOKAI

相の会は、すべてのがん患者さんと家族が対象の患者会です。

『相の会』のはじまり

「がんを生き抜くためには、同じ体験をした人との交流が必要。同じ悩みを持つ仲間と集まり、わきあいあい(相相)と過ごし、気持ちを楽にしながらと共存する力を持ちましょう!」と訴えかけた婦人科の患者さんの思いが始まりです。

現在の「相の会」

平成15年に発足し、当初は婦人科の患者さんのみが対象でしたが、他科の女性患者さん、男性患者さんと少しずつ対象を拡大し、現在は当院への受診の有無に関係なく「すべてのがん患者さんとその家族」を対象としています。

アピアランスケア(外見のケア)

アピアランスケアってご存じですか？

アピアランスケアとは、脱毛や皮膚障害、瘢痕など、がん治療に伴う外見の変化に対するケアを言います。

がん治療に伴う外見の変化は、患者さんにとって、苦痛の上位にあるにも関わらず、長い間、命と引き換えにやむを得ないと考えられてきました。

しかし、患者さんの生存期間は延長し、働く患者が顕著に増加した現代、外見の問題に関わるアピアランスケアは、がん治療の継続や推進のためにも、重要なケアであると言われています。

オンライン相の会でも、「ウィッグどうするの?」「つけまつげするの?」など「アピアランスケア」についての話題がありました。

参加者は、脱毛の経験者、今、脱毛している方など、様々ですが、「ウィッグがばれて、周囲にがんだと思われるのが嫌だな」という思いや、「あえて安いウィッグにして色々なスタイルを楽しんだ」「バンダナを上手に使った」など、経験を語り合う中で、心と体はつながっているから『自分の身体への見方・感じ方』を変えてみると、気持ちが楽になるのでは、という事が話し合われました。

どんなに高級なウィッグを装着しても、「変じゃないかな…」と思っていると表情が硬くうつむき加減になりますよね。

姫路赤十字病院では、ウィッグの相談会も定期的に行っています。

相の会では、外見の事も、経験者だからこそ素直に話し合えます。皆さんと一緒に話しませんか。お待ちしております。

がん相談支援センター 井上 豊子

「相の会」についてのご相談、ご質問等は総合相談支援課(079-294-2251)または相談支援センターで受け付けています。お気軽にどうぞ。



12月1日～25日は「NHK海外たすけあい」キャンペーン



誰も取り残さない。
紛争からも飢餓からも。

NHK 海外たすけあい

12.1(Thu)～25(Sun)

救うを託されている。



12月1日～25日は「NHK海外たすけあい」キャンペーン

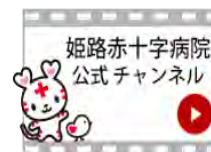
日本赤十字社は毎年12月1日～25日に、NHKと共催で募金キャンペーン「NHK海外たすけあい」を実施しています。お寄せいただいた寄付は、世界中の紛争、災害、病気で苦しむ人々の支援に役立てられます。



健康増進講座 YouTube配信

健康増進や疾病予防を目的として、当院の医師をはじめとした職員が、病気や日常生活についてお話しします。現在はYouTubeでの配信のみです。毎月、様々なテーマで配信予定です。是非ともご覧ください。

当院ホームページまたはYouTubeからご覧いただけます。アンケート・チャンネル登録もよろしくお願いします。



オーラルフレイルについて 16:13(3F)
歯科口腔外科部長 藤原 成博

口腔ケアについて 14:16(4F)
歯科口腔外科副部長 高木 雄基

口腔ケアの方法 16:15(3F)
歯科口腔外科 歯科衛生士 北村 雄廣

嚥下障害について 11:30(3F)
リハビリテーション科 言語聴覚士 中野 朋子

ひざの痛みについて 5:15(2F)
整形外科 医師 山川 大輔

**わかりやすい
胃癌と内視鏡治療の最前線** 10:19(2F)
消化器内科部長 堀 伸一郎



広報誌「さわやかライフ 137号」 アンケートへのご協力をお願いします。

皆さまの貴重なご意見を、広報誌「さわやかライフ」作成に役立てたいと考えております。スマートフォン、PCから手軽に回答いただけますので、ご協力よろしくお願いします。



スマートフォンから

右のQRコードを読み込んでください。



パソコンから

<https://forms.office.com/r/TZjvhm6b09>からアクセスしてください。

